

鹿児島の動物⑦ **イボイモリ** (イモリ科)

脊椎動物担当 中間 弘

イボイモリは、奄美大島・加計呂麻島・徳之島・沖縄島などに生息する、琉球列島の固有種です。イモリ科の中では最も原始的な姿を留めています。

体長は14～20cmと普通のイモリよりはるかに大きく、肋骨の先端がイボ状に張り出していて、名前の由来になっています。体色は全体に黒褐色で、四肢の先や肛門の周り、尾の下側等がオレンジ色をしています。

産卵期は2～6月で、産卵の場所は水中ではなく、孵化した幼生が自力で水に入っていくような水辺の落ち葉の下というユニークな場所が選ばれます。1匹の雌が産む卵の数は50～60個といわれています。

餌はミミズやワラジムシ類です。動きはとても緩慢で、ふだんは落ち葉の下や石のすき間、人が放置した戸板の下などにじっとしています。



春から夏には産卵場所へ移動する途中のものが車に轢かれることが多くなります。近年、生息環境の減少や飼育目的の採取により生息数が著しく減少してきました。2003年4月にイシカワガエル・オビトカゲモドキとともに、県の天然記念物に指定され保護されるようになりました。

鹿児島の植物⑦ **ミヤマキリシマ** (ツツジ科)

植物担当 大屋 哲

ミヤマキリシマは、九州の火山高地に生える半落葉低木で、鹿児島では霧島山と高隈山に分布しています。鹿児島県の県花であり、霧島山では5月頃から花を咲かせ、季節の便りとして新聞やテレビなどで紹介されています。生える場所によって樹形や花色に変化があることや、クルメツツジをはじめ多くの園芸種のもとにもなっていることから、人々に親しまれています。

6月の中旬、植物調査で大浪池の外輪部を巡っていましたが、やはり樹によって花の色も少し違うように感じました。(私の個人的な印象ですが)朱色っぽい花、薄い紫色の花、濃い紫の花を見ることができました。また、花に斑点がつくものとつかないもの、ついて



いてもうすくてわかりにくいものもありました。葉は表面に毛が多く白っぽく見えるものや、毛が少なく光沢があるものもあつたりしました。いろいろな表情を見せるミヤマキリシマの観察はとてもおもしろく楽しいものです。